

福岡の現代美術、その30年の歴史を回顧する

出品作家(おむね展示順)

福岡立美術館で展示(1970年代~80年代初め): 小松豊/松本芳年/藤田善二/木戸龍一/小田部幸久/柳和暢/藤野忠利/角一朗/小山正/川原田隆/長谷川清/村上勝/仙頭利通/小川幸一/木塚忠比/山野真悟/江上計太/和田千秋/牛島智子/土佐尚子/高向一哉/山崎直寿/永崎通久/廣末雅巳/大久保忠孝/酒井忠臣/片山武/佐藤文玄/松川英俊/望月菊香/河原美比古/池松一隆/内野博夫/松本俊夫/伊藤高志/高下明彦/伊奈新祐/ブルム・メーカース・アールド

福岡市美術館で展示(1980年代初め~2000年): 川原正/安齊兼男/北山善夫/戸谷成雄/阿部守/大津こころ/岡部昌生/藤幸典/藤巻保/武田龍章/今泉憲治/島野進/土田恵子/宮川敬一/金ヶ江和隆/石川幸二/石井春久子/新庄良博/ハミヤユ・フロン/鈴木淳/高孝信/紅野雅昭/岡本光博/草野貴生/坂崎隆一/山田淳也/広瀬勲/末藤夕香/伊藤智恵/森村泰昌/草間彌生/小沢剛/牛嶋均/ナカイン・クワシキヤイン/藤岡敏/ツレンナマミヤン・フエグジ/ニコソファール・アクトゥ/タン・タク/ナムジエン・バク/廣浩志/元村正信/後良京子/角孝政/八尋晋/坂井晋/後藤幸子/成田隆哲

※本展において重要な美術家であっても、作品が所蔵していない等の理由で出品できなかった方もおります。

福岡 現代美術 クロニクル

**SITUATIONS AND EXCHANGES:
FUKUOKA CONTEMPORARY ART CHRONICLE**

1970-2000

福岡県立美術館 × 福岡市美術館
2013/1/5[土] - 2/11[月・祝]

会場/福岡県立美術館: 1階+3階展示室 福岡市美術館: 特別展示室A
開館時間/福岡県立美術館: 10:00~18:00(入館は17:30まで)
福岡市美術館: 9:30~17:30(入館は17:00まで)
休館日/月曜休館(ただし1月14日[月・祝]、2月11日[月・祝]は開館し、1月15日[火]は休館)
観覧料/一般: 1,200(1,000)円 大学・高校生: 700(500)円 中学生以下: 無料
※上記料金で、2館の展示をご覧いただけます。

※()内は20名以上の団体および65歳以上の方の割引料金。65歳以上の方はチケット購入時に年齢が分かる物(健康保険証、運転免許証等)を提示の上、必ず2館ともご持参ください。
※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の提示者とその介護者1名 ※特定障害者受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾患医療受給者証の提示者 ※他県引率による児童・生徒および教員 ※会場中上層目録の掲載先以下の方
主催/福岡県立美術館、福岡市美術館
協賛/公益財団法人アトビグループ芸術文化財団、公益財団法人福岡文化財団
協賛/公益財団法人、財団法人、社団法人、NPO・NNG 福岡放送局、NHK福岡放送局、RKB毎日放送、九州朝日放送、TNCテレビ西日本、FBS福岡放送、TVQ九州放送、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団

福岡県立美術館 | 福岡市美術館
Fukuoka Prefectural Museum of Art | Fukuoka Art Museum

福岡の現代美術、その30年の歴史を回顧する

1950年代から60年代にかけての福岡では、前衛美術集団「九州派」が活動したことが知られています。しかし、70年代になって次世代の作家たちが新たな活動を模索し始めたことで、福岡の美術状況が40年後の現在につながる重要な段階に入っていたことは見落とされがちです。本展では、「九州派」以後の停滞した美術状況を打破すべく活動を始めた70年代に活動を始めた作家から、現代につながる新たな動向を代表する作家まで、85作家の作品約130点を展覧します。

この30年間の福岡現代美術は、地方都市である福岡に、美術の「状況」を作るべく、福岡の作家同士、あるいは他都市(他国)の作家と福岡の作家が「交流」しあってきた結果ということが出来ます。それゆえ、福岡で活躍した作家の代表作を出品するだけでなく、彼らに大きな影響を与えたとされる他地域の作家の作品も加え、さらに実験映画の上映など、多角的な構成や展示を試みます。

本展は福岡県立美術館、福岡市美術館が企画段階から連携し、2館同時開催を行う初の共同企画展です。福岡市内の比較的近い距離に位置し、異なる歴史やコレクションをもつ2つの公立美術館が、それぞれの長年にわたる研究成果を持ち寄り共同作業を行うことは、福岡のアートシーンにおいて画期的なことです。

福岡を拠点とし、福岡で発表した美術家たちの表現の変遷をたどり直すことで、福岡県内における現代美術の承襲を美術史的な文脈で再検証します。

関連イベント ※いずれも要予約、参加無料 (詳細は、各館のチラシや、本展HPをご覧ください)

記念シンポジウム「福岡の現代美術、1970年代以降を回顧する」

1月5日(土) 14:00~17:00 会場:福岡市美術館講堂

福岡の現代美術を見つめた識者たちが、過去30年間の福岡の美術状況について語ります。
 出演: 深野尚(ジャーナリスト、元・フタニオ新聞記者)、山野真樹(黄金野バザール・ディレクター、元・IAP芸術研究室主宰)、岡部昌生(アーティスト、北海道在住)、後小路雅弘(九州大学大学院教授、元・福岡アジア美術館学芸員)、川崎千鶴(高知県立美術館学芸員、元・福岡県立美術館学芸員)、小嶋一樹(千原ホテル代表取締役社長)・佐藤孝一(IAP Shop 代表)

福岡アートJ(スツアール)

1月19日(土)・27日(日)両日とも13:30~15:30

福岡市内の新しいギャラリー等を訪問し、福岡のアートを見つめてきた人々から話を聞きます。
 *定員20名、要申し込み、詳細は本展HPをご覧ください。

パフォーマンス再現

2月2日(土) 16:30~ 会場:福岡県立美術館1階彫刻展示室
 出品作家の意向一応が、1980年代に行っていたガラスを纏るパフォーマンスを再現します。

80年代実験映画上映会

1980年代前半の福岡は、実験映画のメッカと言われました。フィルム・メーカーズ・フィールド(FMF)の「パーソナルフォーカス」および九州芸術工科大学ゆかりの映像作家(脚本家・伊藤高志・森下明彦)の作品9本を、フィルムで上映します。

【会場:福岡県立美術館視聴覚室】(上映のみ いずれも14:00より)
 2月2日(土)「パーソナルフォーカス」/ 2月3日(日)実験映画

【会場:福岡市美術館講堂】(上映+解説)
 2月10日(日)10:00~「パーソナルフォーカス」/ 14:00~実験映画

<解説:宮田博子(FMF主宰)、森下明彦(映像作家)>

映像ワークショップ「あなともつくらう実験映像!」

2月9日(土) 13:30~ 会場:福岡市美術館講堂
 フィルムを扱い、アナログだからできる面白い映像をつくります。
 講師:宮田博子 定員:50名(当日先着順)



1970- 左:小島正 (『風船とクマ』 1955年 (現)九州中心ギャラリー1-6) 右:村上肇 (『Gold Metallic』) 1972年 福岡市美術館蔵



1980- 左:伊藤高志 (『SPACE』1980年7月) 1981年 福岡県立美術館蔵 右:安野尚秀撮影 (山田正三撮影、相模湾でのパフォーマンス) 1983年 ©ANZAI 右:岡部昌生 (Strike On the Road at Hirahimacho in Sapporo.12 May 30 Jun 1987 1987)



1990- 左:伊藤高志 (『SHAM』 1989年 福岡県立美術館蔵) 右:江上野大 (『Psychobolic』Tokyo No.15 1995年 福岡県立美術館蔵) 右下:伊藤高志 (『クランツ』 1990年 (複製写真))



Facebook 「福岡現代美術クロニクル1970-2000」で検索。

福岡県立美術館 〒810-0001 福岡市中央区天神5-2-1
 Fukuoka Prefectural Museum of Art
 tel 092-715-3551 / fax 092-715-3552
 http://fpm.mhlh1.jp/partnet/econ/ie.jp

○地下鉄(中央線)天神駅下車、徒歩10分。○西鉄バス(天神北)下車、徒歩5分。○徒歩(公会館前)下車、徒歩5分。
 ○電車(西鉄大牟田線)福岡駅下車、徒歩15分。○車:福岡都市高速「天神北ランプ」から5分、西鉄天神8台駐車可能(無料)

福岡市美術館 〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
 Fukuoka Art Museum
 tel 092-714-6053 / fax 092-714-6145
 http://www.fukuoka-art-museum.jp

○地下鉄(中央線)大濠公園駅下車、徒歩10分。(七隈線)大濠駅下車、徒歩10分。○西鉄バス「大濠」(美術館入口)下車、徒歩3分。
 「赤坂3丁目」下車、徒歩5分。○車:福岡都市高速「西宮ランプ」から5分、西鉄天神20台駐車可能(無料)